

地域の皆さまと病院をつなぐ

ごろまるだより

総合犬山中央病院広報誌 GOROMARU dayori

ごろまる医療のチカラ

よりよい療養環境を実現し、患者さんの満足度を高める

総合犬山中央病院の“スマートホスピタル”構想

副院長:宮村 耕一・事務局長:加藤 彰裕・AI推進チーム

- ・第22回日本医療バランスト・スコアカード研究学会学術総会にて発表を行いました
- ・自分の健康、後回しにしていますか？
- ・腸活して免疫UP！感染予防 ー感染対策よりー
- ・運動を続けるコツについて（糖尿病に対する運動療法）

Photo：国際協力機構（JICA）視察 2025.8.8



Vol.
137
2025
autumn

ごろまるだより 2025 autumn

Vol.
137

季刊 4 回発行 2025 年 10 月 1 日発行 通巻 137 号 編集・発行人 社会医療法人 志聖会 総合犬山中央病院 〒484-8511 愛知県犬山市大字五郎丸字二タ子塚 6 TEL 0568-621811



運動を続けるコツについて（糖尿病に対する運動療法）

運動を行う注意点

いきなり高い負荷から始めず
軽い負荷から少しずつ上げていく必要があります。
少しでも気になることがある場合は
医療機関に相談することをすすめます。

糖尿病合併症

- しんけい（神経）…末梢神経障害、自律神経障害
- め（目）…増悪性網膜症
- じんぞう（腎臓）…腎機能障害



運動の種類

①有酸素運動

ウォーキングやサイクリングなどの全身運動

【運動の強度】

自覚的に「楽にできる」程度の運動から開始します。
慣れてきたら「ややきつい」程度の運動に
少しずつステップアップします

②レジスタンストレーニング

一般的な筋力トレーニングになります。

【踵上げ運動】 【ハーフスクワット】

【ふともも上げ運動】など
バランスの良い姿勢でゆっくり
行うことが推奨されています。

運動の頻度

①有酸素運動

- ・中強度で週に150分（2時間30分）かそれ以上
- ・週に3回以上
- ・運動をしない日が2日間以上続かないようにする

②レジスタンストレーニング

・連続しない日程で週に2～3回行う

運動を続けるためにどうしたらよいか

運動や活動を習慣化するサイクル

- ①きっかけ、目標・目的をつくる（次回の採血で血糖値やコレステロール値を下げたい）
- ②ルーティーン化する（歩く時間帯を決める、スマホやスマートウォッチを活用する、カレンダーなど利用する）
- ③報酬（誰かと一緒にやる、大会などに参加する）

運動の習慣化には約2～3ヶ月程度かかるといわれています。

自分に合った運動や活動をみつけて継続できるように工夫をすると良いです。



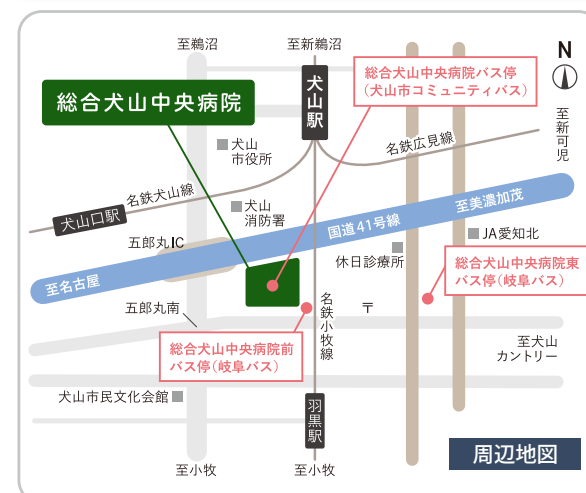
血糖値が気になる方、糖尿病教室で生活習慣改善しませんか？

気持ちの良い秋に、運動療法の体験で体を動かし、専門家からのお話で知識を深めてみませんか？

日時：11月14日（金）14:00～16:15 持ち物：水分補給用の飲み物、マスク、汗拭きタオル
場所：総合犬山中央病院 総合犬山中央病院心大血管疾患リハビリテーション室（西館2階）
〒484-8511 愛知県犬山市大字五郎丸字二タ子塚 6
申込み：当院HPより申込みフォームに必要事項をご入力ください。
※詳しくは当院ホームページをご覧ください。※予定は変更となる場合がございます。



↑お申し込みは
こちらから



社会医療法人 志聖会 総合犬山中央病院

〒484-8511
愛知県犬山市大字五郎丸字二タ子塚 6
TEL.0568-62-8111（代）
HP <https://www.inuyamachuohospital.or.jp/>

外来受付時間 8:00～11:00
休診日：日曜・祝日
面会時間 月曜～金曜 15:00～20:00
土曜・日曜・祝日 13:00～20:00
救急は24時間365日受け付けています。

総合犬山中央病院
理念

地域の人々が安心して暮らせる
心の支えとなる病院を目指します。

総合犬山中央病院
@inuyamachuogenerahospital

総合犬山中央病院チャンネル
@inuyamachuohospital-pr

社会医療法人 志聖会
総合犬山中央病院

よりよい療養環境を実現し、
患者さんの満足度を高める
総合犬山中央病院の“スマートホスピタル”構想

事務局長 加藤 彰裕・副院長 宮村 耕一



総合犬山中央病院では、2024 年より AI の導入を行い、業務効率化・医療の質の向上に取り組んでいます。今回は、AI 推進チームを統括している宮村耕一副院長と、長年 DX の推進を行ってきた加藤彰裕事務局長にお話を伺いました。

病院の建て替えを機にDX化を推進

—DX推進・AI導入の
きっかけをお聞かせください

加藤 DX化と聞くと、デジタルシステムの導入が思い浮かぶかと思いますが、実はシステムを導入するだけではDX化は成功しません。システムを入れるための運用や構造が変わり、構造・運用・システムの3つが調和することで初めて成功するのです。当院は2027年の4月に新病棟の開院を予定しており、病院の構造が大きく変わる建て替えはDX化を行うのに適したタイミングですので、AIの導入を進めることになりました。

DX化は、今やっていることを効率化するための大きな変革です。実施するにあたって最も重要なのは、職員の意識改革だと思っています。これまでのやり方でもいいのと思う人や、今までのやり方を変えるのは大変だと思う人もいますので、教育や研修

を行います。今回は建て替えという
タイミングで、構造や仕組みも変化
しますので、意識を変えていきやす
いのではないかと考えています。ま
た、DX化を進めることにより他院
からの見学も増えていますので、そ
ういった方々に胸を張って紹介で
きるようにするために職員一人ひ
とりが意識を高く持つことで、医療
の質も変わっていくことを期待し
ています。

「患者さんには選ばれる病院」にするという目標に近づくために、A-を活用していきたい

—これまでの経緯を
お聞かせください

加藤 以前から、当院の医師の中でも先進的な考え方をお持ちの宮村先生をはじめ、AIなどの技術に興味を持っていらっしゃる職員の方々が集まりAI同好会というものを作っていました。それがAI推進チームへと進化し、宮村先生をリーダーにDXによる業務効率化・医療

の質向上を考え、2025年より生成AIの医療サービスを導入しました。AIと生成AIには大きな違いがあり、データの分析や分類、予測などが主な役割であるAIに対し、生成AIはデータからの学習を重ね、新たなコンテンツを生成します。生成AIには、事実とは異なる情報を作り出してしまいう現象「ハルシネーション」などのリスクもありますので、まずはチーム内でのテストを行い、ガイドラインを作成し、段階的に運用を開始しました。

宮村 私は前の病院にいた頃から
DX・AIに関心がありました。が、
今回当院に職を得て日本のDX化
の第一人者である加藤局長、AIを
備えた最新の全室個室病院の建設
を掲げる理事長・院長、AIを使っ
て患者さんに満足する病院にした
いという各スタッフのもとで働け
る偶然に感謝しています。

—DX化によって目指すことを
教えてください

加藤 私たちの目標は、当院を「患者さんを選ばれる病院」にしたい。ことで、今回の建て替えを活かして実現したいのは「療養環境」の向上です。そのためにA IやI o TなどのI T技術を活用し、医療サービスの質向上、業務効率化、医療従事者の働き方改革、患者さんの利便性向上を目指す取り組み「スマートホスピタル」を掲げています。A Iは導入することが目的ではなく、目標や理想に近づくためのツールとして使うものです。患者さん目線により快適な環境にすることを目指していきます。

Ａーが得意とすることを
Ａーに任せ、医師は
医師のすべきことに集中

—現在行っている取り組みについて教えてください

宮村 まずは議事録の作成にAIを活用しました。音声データをもとに文字起こしをして、それを指定した形式でまとめるというものです。



AI推進チーム会議
月に1回各科のAI使用状況や課題などを
共有し、今後の方向性を決定する。

こちらには導入により議事録作成にかかる時間を50%以上削減することができました。ほかには、カルテの内容をAIに読み込ませ、まとめてもらったり問題点を挙げてもらったりしています。今、試験的に実施しているのが患者さんとの問診です。患者さんとのやりとりをおさめた音声データをもとに文字起こしし、聞き漏らしたことはないかどうか、ほかに何を尋ねると良いかなどをAIに提案してもらいます。

加藤 生成A1は、文章をまとめるスキルが非常に高いので、そういった部分ではどんどん活用していきたいですね。また、これまでに患者さんから「診察中に医師が一度も

AI推進チーム

多職種からなるAI推進チームプロジェクト体制

総合犬山中央病院AI推進チームでは、医療現場にAI技術を導入し、業務効率化と医療の質向上を目指した多職種連携による取り組みを進めています。このプロジェクトは、竹腰理事長や加藤事務局長をはじめとする経営層が中心となり、診療部の宮村副院長や平岡リハビリテーション科医長をはじめ、看護部、メディカル部門、事務部門のメンバーを加えた総勢13名で構成されています。チーム全体が一丸となり、それぞれの専門分野でのAI活用について積極的に共有し、現場の課題解決と医療のさらなる発展に向けた活動を行っています。

2024年にAIツール「Ubie」の導入が決定し、試験運用を経て、2025年6月には本格運用が開始されました。現在では議事録作成やカンファレンス資料の作成、多言語対応など、AIの能力を活かしたさまざまな業務効率化が実現されています。また、診療部や看護部、事務部門が協力し、職員研修やプロンプト作成の改善に取り組むなど、導入後の課題解決にも力を注いでいます。

このプロジェクトチームの特徴は、メンバー全員が好奇心旺盛で、アイデアを思いつけばまず試してみるという実践的な姿勢を持っている点です。こうした柔軟で積極的なアプローチにより、導入検証のスピードが高まり、課題の発見から改善へのサイクルが迅速に回る仕組みが構築されています。AI推進チームは、医療スタッフの負担軽減と患者満足度向上に向け、安全で効率的な医療提供を目指し、病院全体の業務効率化と医療の質向上に向けた重要な役割を果たしています。



AIツール(Ubie)導入説明会開催

管理職を対象にAI導入説明会を開催。この説明会では、AIを導入することで得られるメリットと考えられるデメリットについて丁寧に解説し、AIに対する理解を深めていただくことを目的としました。また、実際の操作方法についてもしっかりとレクチャーを行い、現場でのスムーズな運用をサポートしました。説明会を通じて、AIの活用に対する理解と意欲を高めることで、今後の運用拡大に向けた基盤を整えることができました。



計画と改善で進めるAI活用

AI推進チームでは、AIを活用する目的や達成目標を明確にし、それに基づいたアクションプランを綿密に計画しています。この計画に沿ってPDCAサイクルを回すことで、院内でのAI利用をスムーズに進めています。また、AIの使用率を定期的に集計することで、現在できていることや今後やりたいこと、さらには課題点をしっかりと把握。これらを基に日々改善を重ね、AI活用のアップデートを図っています。



顔を見てくれなかった」というお声もありました。PCでカルテを記入することに必死で、患者さんの方を見る余裕がない医師が多いということでした。しかし、患者さんは表情や仕草でも語っています。言葉を捉えるだけではなく、患者さんの様子をしっかりと目で確認することによって隠れた心の動きが見えてくることもあります。

宮村 目を合わせながら問診をしてくれる医師は患者さんにとって安心感があると思います。AIにできることはAIに任せて、医師は医師がすべきことに集中し、精度を上げていきたいですね。

加藤 現在はAIやセキュリティについて学んだり研修を実施したり、AIの使用にあたってつまずきがちなプロンプト(AIへの指示)の解説動画を作成・配信したりしています。職員それぞれが個別で視聴できる仕組みになっていますので、繰り返し視聴して覚えてもらえたらと思います。

職員の負担減や患者さんの快適度向上を叶えていきたい

—今後の展望について—

お聞かせください

宮村 現在、医療現場の課題として看護師の業務過多が挙げられます。当院では看護師業務の50%がカルテや記録などのPC入力業務となっており、そのほかに医師のサポート業務も負担となっています。そこで、それをAIやDXで解決し、看護師の本来の業務に専念できるようにしていきたいと考えています。これまで医師のタスクに対して看護師が電話やメールなどでリマインドしていたのですが、アラートでリマインドするシステムを試したところ、看護師の医師サポート業務の1/3を減らせたということ



もありましたので、こちらは今後も活用していきたいです。

加藤 また、これまで看護師はPCを持ち歩いてカルテの入力をしていたのですが、新病棟では看護師一人ひとりにPhoneを支給し、それを使ってカルテ入力をしてもらおうと考えています。病院のWi-Fi下でのみカルテを閲覧できる仕組みを取り入れることで、セキュリティ面も強化する予定です。ほかには、患者さんが予約するのに使用したスマートフォンが院内に入ると受付が完了するという仕組みをアプリの制作会社と実証実験中です。

profile

かとう あきひろ

1980年に薬剤師として大同病院へ入職。その後、医事課やシステム管理課へ異動し、電子カルテ「MIRAI」の導入やシステムの開発・運用に従事。事務局部長としてシステム管理課長、医事課長、経理課長、経営企画室長などを兼務。2019年にメディカルデータビジョン株式会社へ入社し、新商品の開発やシステム導入コンサルティング業務を担当。2021年より総合犬山中央病院の事務局長を務め、現在に至る。

みやむら こういち

1983年名古屋大学医学部卒業。名古屋第一赤十字病院で研修、名古屋大学、米国立衛生研究所(NIH)を経て、東北大学医学部助教授、名古屋第一赤十字病院副院長等を経て、2021年4月総合犬山中央病院に着任(現、副院長兼血液内科部長)。免疫細胞治療の研究(NHK「きょうの健康」で日本初の再生医療等製品を紹介)や白血病患者さんの生涯フォロー体制の確立など、幅広く患者さんの総合的な健康管理に力を尽くす。

例えば検査の受付場所を一箇所に集約することで患者さんが迷わずスムーズに検査できるようにするなど、わかりやすく快適な仕組みを考え、その中でDXやAIをツールとして活用していきたいです。

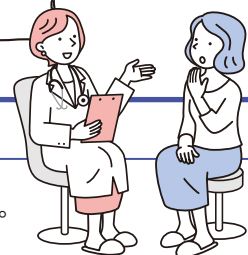
宮村 高齢化社会ですので、わかりやすい案内によってご高齢の方に寄り添うというのも、今後の病院づくりのポイントにしていきたいですね。



健康管理センターからのお知らせ

自分の健康、後回しにしていますか？

気になる検査を選んでいただき、健康診断時にオプションとして付けていただけます。
単独検査も可能です。



★マイシグナル

手間なく受けられる高精度ながんリスク検査
少しの尿で一度に男女計10がん種のリスクを調べられる
新しいタイプの検査です。

★LOX-index(ロックス・インデックス)

将来の脳梗塞や心筋梗塞の発症危険度を評価する採血検査です。

※他にも腸内フローラ、甲状腺検査など各種ございます。ホームページをご覧ください。

★AICS(アミノインデックス)

膵臓がんを含む複数のがんの可能性を採血で検査します。

★マイクロアレイ

がんなどに対する体の反応を遺伝子レベルで測定できる
最新の技術です。

胃がん、大腸がん、膵臓がん、胆道がんが対象となり、一度の採血で検査できます。

インフルエンザ・带状疱疹・肺炎球菌・コロナ他、各種予防接種のご予約を承ります！

65歳以上で対象の方は予防接種の補助がある場合があります。

お住まいの市町村によって異なりますので詳細はお問い合わせください。

健康診断と同日の接種可能、自費での接種も可能です！ ※接種ご希望日の2週間前までにご予約をお願いします。



あなたに合った検査をご提供します。ぜひお気軽にご相談、お問合せください。

【ご予約・お問い合わせ】総合犬山中央病院 健康管理センター
直通(0568)-62-8246 代表(0568)-62-8111



腸活して免疫UP！感染予防

腸活の基本4本柱

①発酵食品(プロバイオティクス)

ヨーグルト、納豆、キムチ、味噌、チーズなど。
乳酸菌やビフィズス菌を腸に届け、善玉菌を増やす効果。

②プレバイオティクス(善玉菌のエサ)

食物繊維やオリゴ糖を多く含む野菜、海藻、豆類、
きのこ、バナナ、はちみつなどを積極的に摂る。
水溶性食物繊維は善玉菌を増やし、不溶性食物繊維は便秘を整える。

③食生活のバランス

高脂質・高タンパク質(特に肉中心)は悪玉菌を増やしますが、
タンパク質は免疫細胞にも必要。
魚や大豆製品中心でバランスを。

④適度な運動・睡眠・ストレスケア

運動は腸の蠕動運動や自律神経を整え、良質な睡眠・
ストレス対策も腸活に必須。



腸活の主な効果

- ①風邪やインフルエンザにかかりにくくなる。
- ②美肌や便秘改善、ダイエット効果が期待でき、肌荒れやぽっこりお腹の改善も狙える。
- ③精神にも影響。幸せホルモン・セロトニンの約9割が腸で作られ、気分の安定にも関与します。



地域連携支援センターからのお知らせ

第22回日本医療バランスト・スコアカード研究学会 学術総会にて発表を行いました

2025年8月9日(土)、東京都渋谷区の日本経済大学で開催された「日本医療バランスト・スコアカード学会」に参加し、ポスター発表を行いました。

テーマは「人口減少社会を生き抜くための医療マネジメントとBSC(バランスト・スコアカード)」で、高齢者の増加だけでなく労働人口の減少による問題、そしてそれに伴う医療業界が直面する様々な課題について議論が行われました。この議論には国内の専門家だけでなく、台湾からの参加者も加わり、活発な意見交換が行われました。



【会場の様子】

今回の発表は、5月に台湾で発表した内容の続報として、地域連携支援センターにおけるBSCの活用事例を基にした内容でした。「この地域で選ばれる地域連携支援センターになる！」という目標のもと、様々な活動に取り組んでいます。具体的な取り組みとしては、地域の医療機関との連携強化や、入退院される患者さんとそのご家族からの相談対応、退院後の生活を支えるサービス提供体制の構築などがあります。



また、地域の医療機関の先生方や施設の関係者から多くのアドバイスをいただくとともに、患者さんへの満足度アンケートを実施し、さまざまなご意見をいただきました。これらを基に、今後も継続して業務の見直しを行い、地域に根差した支援センターとなるよう改善を進めてまいります。

今回の発表では、BSCを活用した具体的な取り組みや成果、そして今後の展望について説明しました。多くの参加者から質問や意見をいただき、大変有意義な時間となりました。このような機会をいただけたのも、日頃からご協力いただいている地域の皆さまと関係者の皆さまのおかげです。心より感謝申し上げます。

今後も継続的に活動を予定しており、その進捗については随時ご報告させていただければと思います。地域医療の向上に貢献できるよう、BSCをさらに活用しながら、地域連携支援センター職員一同、引き続き努力してまいります。



【相談窓口のご案内】

相談窓口では、患者さんやご家族の入院及び生活に関する不安等、様々な相談をお伺いする窓口です。退院支援看護師、社会福祉士等が対応します。お気軽にお越しください。

◎相談窓口：本館2階 地域連携支援センター内

◎相談時間：月曜日～金曜日 8:30～17:00 土曜日 8:30～13:00 日祝年末年始を除く

◎連絡先：0568-62-8200